

2026 年 6 月 2 日

学校法人三幸学園
福岡ウェディング&ブライダル専門学校
校長 岩本 克也 殿

学校関係者評価委員会
委員長 浅井 大士

学校関係者評価委員会実施報告

2025 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 浅井 大士 (アイ・ケイ・ケイホールディングス株式会社 支配人)
- ② 松隈 美咲 (株式会社ニューオータニ九州 第 10 期卒業生)
- ③ 久芳 幸子 (西岡総業 株式会社 主任)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2026 年 6 月 2 日 (会場 福岡ウェディング&ブライダル専門学校 バンケット教室)

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2025 年度 学校法人 三幸学園 福岡ウェディング＆ブライダル専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 小久保 和紀

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 浅井 大土

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、ウェディング分野の学校として「最幸の結婚式を通じて、日本そして世界の家族を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、ウェディング分野として「最幸の結婚式を創り上げることを通じて、新郎・新婦だけでなく、その家族、その人生も幸せにできる No.1 のプランナー・コーディネーターとなる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

前年度の目標

- ・学生との連携がとれるように複数担任制を取り入れ、窓口を増やす
- ・企業様による講話を実施し業界理解を深める
- ・教員間の連携を深めるために月1の教科会で手合わせの実施する
- ・学生のニーズを理解する為に研修に積極的に参加

振り返り

- ・複数担任制により学生が相談しやすい環境が整い、学生支援の充実につながった。
- ・企業講話を通じて業界への理解が深まり、職業観の醸成につながった。
- ・定期的な教科会により情報共有が促進され、教員間の連携強化につながった。
- ・各種研修への参加を通じて学生理解を深め、指導力向上につなげることができた。

② 学校関係者評価委員会コメント

(久芳委員)

- ・学生が相談しやすい環境づくりが進んでいる。今後も学生一人ひとりに寄り添った支援の継続を期待したい。

(松隈委員)

- ・企業講話は学生の業界理解や就職意識の向上、インターンシップへの意欲向上に有効である。引き続き多様な企業との連携を推進していただきたい。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

① 課題

- ・教育理念「技能と心の調和」および人材育成像を学校内外に浸透していくことが必要である
- ・学生の変化/ニーズに応じて教育方法を検討・改善していく必要がある
- ・学生の資格取得や知識・技術力向上の為、教員もブライダル業界のニーズを把握し、指導内容の充実を図る必要がある

② 今後の改善方策

- ・行事や学校生活を通して、教育理念および育成人材像を伝えられるように取り組む
- ・学生の変化や現在のニーズを的確に理解できるよう、各種研修に積極的に参加し、その内容を教育活動へ反映する
- ・学生が卒業後、即戦力として活躍できるよう、教員の指導方法の共有・検討を会議内で継続的に実施する

③ 特記事項

- ・月1回の教科会を実施
- ・業界理解が出来るように研修を深めることを目的とした研修を8月に実施予定である

④ 学校関係者評価委員会コメント

（浅井委員）

- ・カラー系の知識を持つ人材は多い一方で、「骨格診断」の知識を持っている人材は少なく、今後はそのような力を備えた人材が求められているように感じる
- ・大学生と専門学生の違いとして、専門学生には専門知識や技術を身に付けたうえで現場に出てきてほしい

（松隈委員）

- ・学生時代インターンシップに参加していなかったが、現在現場で働く中で、学生のうちに参加しておくべきだったと感じている
- ・学生時代にオープンキャンパスのスタッフを経験していたが、現在の仕事と役割や流れが共通しており、その経験が役立っていると感じている

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

① 課題

- ・教員一人ひとりがコンプライアンスに関する内容を十分に理解し、適切に対応できるようにする必要がある
- ・紙媒体だけではなくデータやシステムを活用した業務改善が必要である

② 今後の改善方策

- ・コンプライアンスや著作権について、教科会等の機会を活用し、周知・認識の統一を図る
- ・引き続き月 1 回の教科会を実施し、教員間での情報共有と認識の統一を図る

③ 特記事項

- ・全体会議内にてコンプライアンスに関する周知を実施している
- ・WEB を活用したコンプライアンス研修(理解度確認テスト)を実施している

④ 学校関係者評価委員会コメント

（松隈委員）

- ・新卒研修で「コンプライアンス研修」を受講したが、学生時代から知っておくべき内容だと感じる

（浅井委員）

- ・個人情報保護や情報漏洩防止など含めて、3 か月に 1 回、100 点を取得するまでコンプライアンスに関する理解度テストを実施している

- ・従業員の SNS 利用についても、情報発信に伴うリスクを周知・指導していく必要がある

（久芳委員）

- ・留学生に対するコンプライアンス研修については、管理体制も含めて、今後重要性が高まると感じる

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

- ・企業インターンシップの意義や魅力を学生へ効果的に伝える体制を構築する必要がある
- ・専門性の高い教員を確保するために、業界動向や企業のニーズを継続的に把握する必要がある

② 今後の改善方策

- ・引き続き企業訪問を通して業界の動向をヒアリングし、カリキュラムの改善や学生指導に活かしていく
- ・企業インターンシップの取り組みやメリット・魅力を学生へ丁寧に伝え、将来の強みにつながる経験であることを明確に伝える
- ・教科会を通して教員間で認識に相違が生じないよう連携をする
- ・新学科の設立に向けて業界経験や専門性を有する教員の確保を進める

③ 特記事項

- ・研修へ積極的に参加し、説明力や学生への声掛け・褒める力などの指導力向上に努めている
- ・検定取得に向けて検定前の一定期間を対策期間として集中的な指導を実施する「検定WEEK」を設けている

④ 学校関係者評価委員会コメント

(松隈委員)

・学生時代は「土日に活動しなければならない」という理由からインターンシップへの参加をためらっていたが、現在は学生時代に参加しておけば良かったと強く感じている

(浅井委員)

- ・適性検査で不採用になる方は「自分をよく見せようとしている」「正解を求めすぎている」可能性がある
- ・インターンシップには積極的に参加しておくべきであり、現場に出た際には経験の有無が差につながる
- ・インターンシップの説明を行う「ガイダンス」の内容を保護者にも共有することで学生の参加率に繋がる
- ・学生にとって有意義なインターンシップとするためには、受入企業との継続的な連携が重要である

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	3
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・就職率向上に向け、1 年次より計画的な支援対策を実施する必要性がある
- ・卒業生の活躍状況を、教員間で共有して学生へ還元する仕組みを構築する必要がある

② 今後の改善方策

- ・就職率向上にむけ、1 年次から卒業生を招いたイベントや座談会などを計画的に実施する
- ・企業訪問を継続的に実施し、教員の業界理解を深めるとともに、学生への就職指導に活かしていく

③ 特記事項

- ・8 月に業界関係者による講話を実施予定

④ 学校関係者評価委員会コメント

(松隈委員)

- ・在学中に卒業生と交流する機会があることで、就職活動や学校生活に対する意識向上につながると感じる

(浅井委員)

- ・企業としても、卒業生が母校で自身の経験を伝える機会を持つことは、大きなやりがいや社会貢献に繋がる。

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

- ・幅広い職種に対応した求人票を確保する必要がある
- ・卒業生に向けた中途採用募集求人情報の発信を強化する必要がある

② 今後の改善方策

- ・企業訪問や新規企業開拓を実施し、幅広い職種での採用がいただけるよう求人票の確保に努める
- ・卒業生の勤務先における求人状況を定期的に確認し、求人情報の収集を行う
- ・転職を考えている卒業生に対して、即戦力を求める中途採用求人情報を、同窓会 Link 公式 LINE を活用して発信する

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

（浅井委員）

- ・卒業生の状況を、学校と企業が連携して把握・共有することで双方にとって有意義な取り組みにつながると感じる

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

① 課題

- ・業界の動向を把握し、状況に合わせて設備の調整を図る必要がある
- ・有給企業インターンシップを任意参加にしている為、参加希望者が少ない状況である

② 今後の改善方策

- ・新学科設立に向けて、校舎改装予定である
- ・6月に実施するガイダンスにおいて、有給企業インターンシップの意義やメリットを伝える
- ・学生が積極的にチャレンジできるよう、企業と連携した受け入れ態勢を構築する

③ 特記事項

- ・安全管理に関する研修を実施予定である

④ 学校関係者評価委員会コメント

（久芳委員）

- ・学生は、非常に丁寧に校舎や設備を利用している印象がある
- ・新学科設立も含めて、必要な設備の整備についても協力をしていきたい

（浅井委員）

- ・安全管理に関する研修は、企業の現場でも継続的に実施している

(7) 学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

- ・ブライダル業界への就職を希望する学生に対し、業界の魅力を十分に伝える必要がある
- ・本校の教育の特徴や学ぶメリットについて、より効果的に発信する必要がある
- ・新学科新設に伴い、学校および新学科の認知度向上を図る必要がある

② 今後の改善方策

- ・教員間で業界理解や学校理解を深める為、グループワークを実施する
- ・業界理解を深める為に、企業訪問を積極的に行い、得られた情報を教員間で共有し学生募集や教育活動に活かす
- ・新学科に関する情報を公開し、WEB や高校訪問を通して積極的に情報発信を行う

③ 特記事項

- ・2027 年度 4 月より校名を【福岡ブライダル＆ホテル・観光専門学校】に校名変更予定である
- ・2027 年度 4 月より【ホテルエアトラベル科】を新設予定である

④ 学校関係者評価委員会コメント

（浅井委員）

- ・式場とのコラボレーションイベントを、ホテルと連携したイベントも実施することで、学校や新学科の認知拡大につながると感じる
- ・ホテル事業の人材育成を進めるのであれば、全国宴会支配人協議会(BMC)に参加することで、業界の情報交換やネットワーク構築につながると考える

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

なし

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

2025 年度は第3期中期経営計画(2023 年度～2027 年度)の 3 年目にあたり、東京未来大学及び小田原短期大学の中期計画改定を反映し、第3期中期経営計画＜第 2.0 版＞を策定し年度開始時より適用した。中期経営計画及びその進捗状況はホームページ上に公開している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

・全体会議や教科会を通して、個人情報の適切な取り扱いに関する教職員の認識を強化する必要がある

② 今後の改善方策

・全体会議および月1回の教科会において、個人情報の取り扱いに関する周知を継続的に実施し、認識の統一を図る

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

引き続き地域との連携を図り、ボランティア活動や地域清掃活動などへ積極的に参加する

③ 特記事項

- ・2025 年 11 月 「秋のステージはかた」ボランティア活動に参加
- ・2026 年 5 月 「博多どんたく港まつり」ボランティア活動に参加
- ・2026 年 6 月 施設と連携し「夢プロジェクト」に参加

④ 学校関係者評価委員会コメント

（浅井委員）

地域行事やボランティア活動への継続的な参加は評価できる。学生が地域と関わる良い機会となっており、教育的効果も期待できる。引き続き地域連携を深め、継続的な取り組みに期待したい。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

（小久保副校長）

昨年度の学校関係者評価および委員からの意見を踏まえ、業界との連携強化や実践的な教育機会の充実に取り組んできた。特にインターンシップや企業連携による学びは着実な成果が見られた。一方で、企業インターンシップの参加率の向上や卒業生との連携強化には課題が残っている。今後は学生が早期から業界理解を深められる機会の充実と個別就職支援の強化を図り、社会に貢献できる人材育成を一層推進していく。

以上